水戸市中心市街地活性化協議会運営委員 第2回運営委員会出席者名簿

【平成21年9月25日(金) 午前10時30分～午後12時30分】

茨城県産業会館 中会議室

(順不同・敬称略)

	所属団体・事業所等	氏名	出欠
協議会 構成員 委員	水戸商工会議所 副会頭	鈴木 重男	×
	水戸商工会議所 中部ブロック協議会長	黒澤 輝子	
	水戸商工会議所 商業振興委員会委員長	大園 哲生	
	水戸商工会議所 まちづくり委員会委員長	深谷 邦夫	
	NPO 法人茨城の暮らしと景観を考える会 代表理事	三上 靖彦	
	水戸市商店街連合会 副会長	大橋 章	
	駅前地区商店会 代表	久米 勝	
	南町地区商店会 代表	中村 眞一	委任状
	泉町地区商店会 代表	金澤 克憲	
	大工町地区商店会 代表	根本 輝一	
	(株)水戸京成百貨店 総務部長	今井 真澄	
	茨城県バス協会 専務理事	瀬谷 憲雄	委任状
	(株)常陽銀行 公務渉外部地域支援グループ次長	井口 猛	
	リリー文化学園 校長	入江 清芳	委任状
	(株)茨城新聞 編集局長・NIE担当	滝本 政衛	
	大工町一丁目市街地再開発組合 副理事長	平松 克章	×
	茨城大学 人文学部 教授	齋藤 典生	
	水戸市産業経済部 参事(中心市街地活性化担当)	大平 悟	
水戸市産業経済部 商工政策課長	高畑 孝		
水戸市都市計画部 都市計画課長	柏広 和		
法定外 構成員 委員	(株)横須賀満夫建築設計事務所 代表取締役	横須賀 満夫	
	(株)葵建設工業 代表取締役	栗原 英則	委任状
	(株)JR東日本水戸支社 企画室長	小林 雄一	委任状
	水戸市芸術振興財団 事務局長	大津 良夫	×
	常磐大学 コミュニティ振興学部 教授	井上 繁	委任状
	水戸市駐車場業組合 会長	川上 典夫	
	(株)まちプラン研究所 所長	林 雄一	
	まち里研究	松本 治郎	
	常陽地域研究センター 事務局長	出井 滋信	
	(株)常陽産業研究所 地域振興部主任調査役	海老原 健	委任状
	NPO法人茨城NPOセンター commons 常務理事	横田 能洋	×
	オフィス ユア サイド 代表	岩下 由加里	
泉町一丁目北地区市街地再開発準備組合 理事	綿引 甚介	×	
NHK水戸放送局 副局長	藤田 信		

・・・出席 ×・・・欠席 委任状・・・委任状出席

水戸市中心市街地活性化協議会「運営委員会」議事録

- 【日 時】 平成21年9月25日(金) 午前10時30分～午前11時45分
【場 所】 茨城県産業会館 中会議室 B
【出席者】 委員定数 34名
出席委員 27名(内委任状出席7名 出席者名簿:別紙)
オブザーバー 2名(県中小企業課 小林係長、(株)常陽産業研究所 竹中 氏)
【議 長】 齋藤 典生 運営委員長
【報告者】 水戸市中心市街地活性化協議会 事務局(水戸商工会議所 振興部 商工振興課)
【議 題】 (1) 各専門部会の活性化事業プランについて

水戸市中心市街地活性化協議会運営委員会を開催した。

1. 開 会

定刻になり、水戸市中心市街地活性化協議会運営委員会の開催を宣言。

2. あいさつ

- ・会議に先立ち、齋藤典生運営委員長が挨拶。
- ・議事に入る前に、事務局から運営委員の変更を報告。
(旧) N H K水戸放送局副局長 吉田氏 (新) 副局長 藤田 信氏
- ・規約により齋藤運営委員長が議長となり議事に入った。

3. 議 題

(1) 各専門部会の活性化事業プランについて

齋藤委員長は、各部会で検討を行なっている活性化事業プランについての説明・報告を各部会に求めた。

◆街なか居住・市街地整備部会

深谷邦夫部会長は、部会での協議・検討内容等の経緯及び、当部会が主幹となって実施する「街なか居住推進に係るコンセンサス形成事業」の趣旨・目的について説明を行った。(資料1-1・2参照)
また、調査(アンケート)の概要について、調査業務を委託している(株)常陽産業研究所の竹中氏が説明を行った。その後、深谷部会長からアンケートの内容(項目)等について各運営委員の意見等を伺いたいとの要望により、齋藤運営委員長は出席委員に意見を求めた。

—質疑応答等—

- ・Q4-4 大工町一丁目地区再開発とQ4-3 泉町一丁目北地区再開発の設問について、水戸市としてどう考えるか。また、マンション居住者にアンケートを依頼する際、回収率を上げるには直接本人への郵送が望ましいと思われるが、居住者の住所・氏名が把握できない。市の協力は得られるのか。
— 泉町一丁目北地区再開発は未定だが、大工町一丁目地区再開発は計画が概ね固まっており、着工に向かっている。設問するのは良いと思うが、回答項目は大工町再開発組合と事前に調整はしているのか。
- ・どういう回答項目が良いか。各組合に確認して回答項目を設定したほうが良いか。
— 回答項目の内容を各組合と調整・確認したほうが良い。
- ・住民の氏名、住所等の情報提供が可能かどうか、市街地整備課と話し合ってみる。
- ・郵送ができなければ、マンション等はポスティングすることになるが、マンションには管理組合があるので、そこを通して依頼したほうがよい。
- ・問4「まちなか居住について」で、Q4-3～5は空き店舗や再開発の設問としているが、Q4-3「中心街の空き店舗、再開発について」とし、現状説明をした上でQ4-3①、Q4-3②、Q4-3③としたほうが回答しやすいのではないか。

- ・回答の「その他」が形式的。項目ごと（問1～6）に自由な意見を書く欄が必要。
- ・Q3-1「重視した項目（a～l）」の中で市民会館や市役所など、街なかに無いものがある。水戸芸術館など、現状に合わせたほうが良い。
- ・自治コミュニティについて、三の丸、五軒町としているが、大工町エリアの一部は新荘学区になるので加えてほしい。
- ・自治コミュニティへの協力依頼については、三の丸、五軒町、新荘それぞれの会長宛、商工会議所と常陽産研に行ってもらいたい。
- ・班長に何通かの配布を依頼すればサンプル数が増えるのではないか。

委員の意見を聴取したが、今回が初見であることから調査項目については持ち帰り、意見等があれば1週間以内に事務局へ fax 等で提出することとし、委員の承認を得た。

商業・賑わいづくり部会

林副部会長から部会の状況及び活性化事業等について説明。

新規事業・・・市の緊急雇用補助金（3年間）を活用した活性化事業の検討を行っている。中心市街地の空き店舗を活用し、街づくり関係者1名の他3名を常時雇用し、通行量の増加や空き店舗率の低下などを目的とするほか、南町自由広場の活用、若手経営者・商店会等の支援、創業支援、街なかのイベント情報の収集・一元化（プラットフォーム）、各種団体等との連携事業等を行なう。

イベント・・・南町連合商店会では10月1日から「水戸市制施行120周年、水戸藩開藩四百年記念セール」と題した売り出しを実施する。現在水戸市商店会連合会を通して他の商店会の参加を呼びかけている。その他10月31日に「ハロウィンイベント」、11月1日～プレミアム商品券第2弾の販売を予定。

10月10日には南町自由広場イベント「イスバス体験」、11月8日には水戸市商店会連合会感謝祭及び、アンサンブルズ・パレード（芸術館との連携事業）が予定されている。

質疑応答等

- ・南町はすべて連合としてイベントを実施している。
- ・同じエリアでも足並みを揃えてというのは難しい。特にセールなど。
- ・泉町2丁目のイスバスなど、特に若手の連携が徐々に形になってきている。プラットフォーム（新事業）は街づくりのエンジンになるのではないか。
- ・新規事業が動き出すのは12月頃になると思われる。
- ・昨年度末に策定した新商業振興基本計画において、中心市街地への支援策は個々の商店街からブロック単位（駅前・南町・泉町・大工町）に切り替えている。従って南町のような連合組織での活動は市でも期待している。また、それらの活動について連絡調整できるような連絡会などを組織してほしい。
- ・若手事業者の交流・連携に、女性の参加も考慮に入れてほしい。元気な若手女性経営者が頑張っている。

意見交換後、商業・賑わいづくり部会の事業等について委員の承認を得た。

交通・福利向上部会

事務局から9月3日に実施した高齢者による「大型店・商店街モニターツアー」及び9月17日にモニターツアー参加者や福祉関係の団体等を集めての「街なかワークショップ」（詳細は取りまとめ中）について報告を行なった。

ワークショップ参加者からは、商店街・NPO等が連携した事業はこれまで無かったので、良い機会となったとの声が出された。また、他の部会とも連携し、高齢者や障害者、子供づれなどが街なかに来やすい、やさしい街とするための課題等を抽出することとしている。

質疑応答等

- ・平成 18 年から市内中心街循環バスが運行されているが、乗車率が低い。商店街として何ができるか、どのような取り組みをすべきか検討してきた。初乗り（160円）負担などの案もあったが合意に至らなかった。
- ・公共交通機関の位置づけは重要な問題である。
- ・交通に関しても街なかの問題点を確認しながら部会での検討課題としていく。

意見交換後、商業・賑わいづくり部会の事業等について委員の承認を得た。

4 . その他

意見・情報交換

- ・「桜田門外ノ変」映画化の進捗状況等について、10月1日に監督やプロデューサーらによる企画発表が行なわれる。
- ・水戸市にホームグラウンドを移した水戸ホーリーホックの支援として、11月8日からのホームゲームへの協力依頼があった。

以 上